

広大から海外へ留学している若手の日記

米国ミシガン大学留学便り

土岐 茂 医歯薬保健学研究院 応用生命科学部門 医学分野 精神神経医科学 特任助教（当時）

私は現在、アナーバー市にあるミシガン大学精神科のリバーゾン研究室に留学しています。アナーバー市は人口10万人の自然豊かな街で、治安も良く、高齢者に人気があります。北部の湖に囲まれ、今年は大寒波の影響で、強風の際に-30度の体感温度を経験しました。ミシガン大学は最古の州立大学で、研究環境に恵まれています。私自身、毎朝、無料バスで、インド人や中国人、アフリカ系米国人と研究室に通勤し、夜遅く帰ります。

リバーゾン先生はユダヤ系米国人で、心的外傷後ストレス性障害の分子生物学と生理学の研究を長く続けています。一方、親日家で、禅や武道に造詣が深い方です。私自身は神経経済学的観点からの、東洋と西洋の比較文化研究に加えて頂きました。米国は不況が続き、外貨と労働力確保のため、ビザ要件を大幅に緩和しています。中国や韓国の社会への浸透が進み、比較文化研究の追い風となっているようです。台湾人の同僚は優しいクリスチャンで、研究のみでなく、歴史や文化について話し合います。ただ、リバーゾン先生との個別面接は毎週厳しいもので、同僚も緊張している様子が伝わります。その他、週1回夜、精神療法の症例検討に参加しています。異なる社会に住みながら、症例に共通点多々あることに驚いています。

米国の第一印象は自由と民主主義、資本主義の国だということです。批判精神を重んじ、研究室での議論は活発です。また、移民を広く受け入れ、人種や文化、宗教、政治的信条に多様性があります。一方、理想と現実の落差が激しく、変化に富む複雑な社会であると感じます。現在もAffordable Care ActやLesbian、Gay、Bisexual、Transgenderに関連した法整備に大きくゆれています。

こうした知見を日本に帰り、少しでも生かすことができれば幸いです。最後になりましたが、このような留学の機会を与えて頂き、山脇成人教授ならびに関係者の皆様方に感謝いたしております。

